

1. 評価結果概要表

平成 20年 3月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	2070101189
法人名	アタゴ学園株式会社
事業所名	グループホームあたご
所在地	長野県長野市若宮1-9-2 (電 話) 026-254-5746

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年3月24日	評価確定日	平成20年4月4日

【情報提供票より】(20年 1月 20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤5人	非常勤3人 常勤換算4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20, 000～50, 000 円		その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要 (1月 20日 現在)

利用者人数		6 名	男性 1 名		女性 5 名
要介護1		2名		要介護2	2名
要介護3		2名		要介護4	
要介護5				要支援2	
年齢	平均	83 歳	最低	78 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北長池内科クリニック・村山眼科医院・北島歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道18号線と須坂線にはさまれた住宅地に「あたご」がある。須坂線には、オリンピックが開催されたMウェーブや大型商業施設・回転寿司・美味しいラーメン屋さんなどが沢山ある。民家改修のホームであり、外観からは、グループホームの認識は難しいくらいである。ホームが地域と共に生活するには、絶好の場所である。若い管理者は、入居者の孫のようであり、親しまれているように見受けられた。職員のチームワークも取れていて、毎日の生活での疑問点などお互いに投げかけあえる関係である。入居者は、畳と襖と障子と縁側のある生活に違和感無く溶け込んでいるように見受けられた。一般家屋という環境の中で、入居者の現在の機能と体力を活かし緩やかな下降線になるような努力をしていただきたい。多くの課題があるが若く前向きな姿勢を持つ管理者・職員の力で今以上の「あたご」が出来ると思う。見守って行きたいと思う。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	管理者は、今回の外部評価で再スタートを切るという力強い決心であった。少々回り道をしたかもしれないが今後には活かし入居者の生活を第一に考え改善をしていただきたい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価参加は、管理者のみ作成された。貴重な場面を管理者だけで参加というのは残念でならない。今までの職員自身のホームでの生活・ケアを振返りの材料にもなることが出来たと思う。今後ホームで空いた時間に各々がこの自己評価をすることを期待したい。外部評価の結果も職員で共有し定例会等で話し合いを持っていただきたい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) まだ運営推進会議が発足されていない。管理者はこの件について至急に立ち上げることを約束してくれた。運営推進会議について誤解等があった事もあるが、何事においても考え、行動に移していただきたい。考えばかりでは前に進むことが出来ない。地域の中で入居者の方々がいかに溶け込んで生活を送れるかを考え運営推進委員の方々と話し合いの場で提案していただきたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月1回入居者の家族のもとに各々の担当者が手紙を送っている。手紙には、入居者の近況や心身の状況など細かく書かれていて、頻繁に面会に訪れることが出来ない家族にとっては、心強くもあり嬉しく感謝の手紙である。今後も続けていただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 民家改修で団地内にあり自治会に加入している。自治会の仕事も少しずつ請け負っている。団地内を散歩しながら住民と挨拶を交わし、公園でお年寄りの方々がゲートボールをしている時などは、参加させていただく事もある。グループホームとしては、絶好の環境にあると思う。しかしながら積極的に活用されていない。入居者と地域住民とどのような関わり方が出来るか・可能かを考えていただきたい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム あたごの運営理念は作られているが、以前表現により「痴呆」の言葉が使われているし内容が理念というよりも運営の基本方針と見られる。理念自体が長く又地域密着型とは違う表現になっているなど解りづらい。	○	地域密着型になった機会に新たな「あたご」の理念を管理者のもと職員の意見も取り入れながら作成することを希望する。今までの生活の中で基本としてきたものをベースにする事も1案と思われる。理念を作成し家族にも、地域にもアピールすることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		○	「あたご」の理念を共有できるように機会あるごとに話し確認し、毎日の生活を職員が同じ方向を向いていけるように努力していただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	団地の中にあり、自治会費の支払いをしている。回覧板・ゴミステーションの当番などを行っている。団地の中にある公園で近所のお年寄りがゲートボールをしている時、参加させてもらう事もある。敬老の日にはバーベキュー大会を開催している。近所の方々にも声掛けをしている。多くの方に参加していただけるようにもっと努力したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が作成したものを、職員が確認した。	○	自己評価をすることは、今までの経過の反省と、発見・自信につながる作業と思われる。少人数の職員で大変と思われるが、時間を工夫して各自で参加することをお願いしたい。

グループホームあたご

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2008年3月24日現在運営推進会議の取り組みはされていない。	○	運営推進会議は、地域密着型のグループホームには力強い見方である。地域の方々の協力を得ると共に、地域にホームの住人が活躍の場を見出せる手段の助けでもある。早急にメンバー等を決め立ち上げていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「あんしん相談員」の受け入れをしている。市町村との連携は積極的に行われていない。	○	運営推進会議の立ち上げの件を市町村と連絡を取っていただきたい。運営推進委員の方々を決めるのも市町村を通スムーズに早急をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一ヶ月に一回入居者の担当職員が手紙を出している。近況報告など詳しく書かれている。ホームでの行事や入居者の表情・又身体機能等の事も細かくかかれており、家族にとっては、様子が手に取るようにわかることが出来て嬉しく思う。こずかい帳も作成しており訪問された時に見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお手紙に、家族へ「要望・苦情」など無いか問いかけをしている。ホームに見えたときは、積極的に話しかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみのケアを心がけている。退職などで新しい職員が配置される時は、入居者に不安を感じさせないように配慮している。		

グループホームあたご

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のやり繰りしながら研修参加している。研修した職員は、報告書と共に研修の書類などを他の職員にも回覧している。管理者は、入居者の担当職員を決めケアプランの作成に参加させている。職員の観察力・自己啓発につながる作業として評価できる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに加入していて情報を頂いている。管理者・職員が他のグループホームの訪問・交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の家族よりの話を聞き、管理者が訪問して本人と面接し決めている。関連の老人ホームよりの受け入れもある。入居者が決定してから現場職員に知らせている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方から職員を慰労する言葉をかけていただいたりした時に、(思いやり)など職員自身が考え直す場面もある。料理・知識など教えていただく事もある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在は、会話で意思の確認が取れる状態であるが、少しずつ介護度が上がってきている。体調の悪い日などは、職員が話しかけ、うなずきや、表情でコミュニケーションを取るように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初の介護計画は、管理者が家族・本人の意見を聞き作成している。	○	本人・家族・職員の納得の行く話し合いのもとに計画を作成していただきたい。入居者の希望と家族の希望を具体的に計画し、分かりやすい表現で作成し、又計画期間の記入を書き込むことをお願いしたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に三ヶ月に一回の見直しを行っている。見直しは、入居者の担当職員が作成し、定例会議で意見を聞いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が付き添えない場合は、職員が付き添いを行っている。理・美容の先生にあたごまで出張していただき整髪の援助をしている。		

グループホームあたご

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在6名の入居者は、入居時に家族よりの希望で協力医に変更した。協力医による往診もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、契約時に「1対1での入浴が出来なくなった時点で退所して頂く」事を書き加えている。民家改修というハード面でも生活に支障が出てくる場面が考えられるので現在は、終末ケアに関しては、考えていない。今後は、しっかりと方針を打ち出す考えである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は、襖・障子で閉めてあり、入室する時も必ず声掛けをしている。職員は、入居者に対しての声かけは、優しくゆっくりとした口調で話している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「あたご」は、入浴の日が決められている位でそのほかのことについては、入居者の体の調子などを見ながら行動している。朝起きてお天気であれば皆で車に乗って外出する事もある。		

グループホームあたご

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ダイニングキッチンで全員で食事を頂いている。全員で「頂きます」の掛け声で食べている。座ったままの作業など出来る範囲の事をお手伝いしていただいている。食材の買出しも交代で職員と一緒に出かけている。献立とは違うものを入居者の希望で変更する事もたびたびある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日と金曜日が入浴の日となっている。夏場など希望すれば入浴できる。一日かけて、ゆっくりと入居者の方々に順番で入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内に小さな畑があり暖かくなると、苗を植えたり、あまり手の掛からないようなものを植え収穫を楽しんでいる。手芸・はり絵・囲碁など各自出来る範囲で楽しんでいる。今後は、ボランティアの受け入れも積極的に行いたい方針である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い縁側がありそこでひなたぼっこなど楽しめる。団地内にある公園に散歩に出かけている。毎月1回主たる行事を行っている。四季折々の行事に参加して帰りに、外食するなど入居者の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	部屋に面した廊下の鍵などはしていないが、フェンスの鍵をかけている。外部より訪問者は、入りづらい。団地の中のホームなので車庫も広くなく、玄関先の空いたところに車を駐車している。そのため外部よりの訪問者にとっては、分かりにくい。	○	ホーム側の思いは違うのだろうが、フェンスに鍵をかけていると外部との接触を拒否するように地域住民に誤解を与えるかもしれない。以前徘徊する方が居た為鍵をしていたが、現在は居ない。状況に応じて鍵をしないことを望む。

グループホームあたご

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回県職員の立会いの下行われている。	○	職員の勤務時間がまちまちであるが、入居者の命に関わることから、全員参加で行う事も考えていただきたい。隣組の方々に声掛けをし行うことも考えていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士が居るので献立を作成する時に見てもらっている。水分は、午前と午後のお茶の時間・食事の時のお茶など職員が見ながら補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のホームであり入居者の方々にとっては、慣れ親しんできた建物である。玄関があり、襖があり、廊下があり、畳があり今までの生活の場と同じ環境と思われる。一人ひとりが、作った手芸や飾り物が、玄関先や居室に飾られている。落ち着ける環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋・フローリングとあるが使いやすく整理されている。襖と障子で仕切られた部屋などは、お年寄りにとっては、本当に落ち着ける場所ではないだろうか。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。